創業への心構えと準備を学びます！

「創業セミナー＆個別相談会」

「会社を立ち上げたい」、「立ち上げた事業を軌道に乗せたい」、「創業に興味があるけれど、どうしたら良いのか分からない」、「どんな支援が受けられるのか知りたい」など、創業に関する疑問や質問をお持ちではありませんか。日本政策金融公庫日立支店では、「創業するなら知っておこう！ 創業の心構えとその準備」と題して、今年も創業セミナーを開催します。

先輩創業者の事例紹介のほか、セミナー終了後には東海村創業支援ネットワークの各専門機関による個別相談会も実施します。創業に興味がある方や創業初期の方は、この機会にぜひご参加ください。

日時▼２月18日（土）午後２時～４時30分
場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」
参加費▼無料
その他▼新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、中止・延期となる場合があります。
申し込み・問い合わせ▼事前に、応募フォーム（右下の二次元コードからアクセス可）から申し込みまたは、村公式ホームページからダウンロードした申込用紙に必要事項を記入の上、日本政策金融公庫日立支店（☎0294-24-2451）、東海村創業支援室（☎212-5700）のいずれかへ申し込みください。

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～

暮鳥詩碑に込められたメッセージ

東海村文化財保護審議会委員
宮内　教男

昭和52（1977）年、村松山虚空蔵堂三重塔の前で、山村暮鳥の詩碑の除幕式が行われました。山村暮鳥（1884年～1924年）は代表作「雲」（「おうい雲よ ゆうゆうと 馬鹿にのんきさうぢやないか」）で広く知られ、晩年は磯浜明神町（大洗町）で過ごしました。詩碑には暮鳥の詩「黒い土」の一節「おう土よ生けるものよ その黒さに太古のかほりがただよつてゐる」が刻まれています。昭和14（1939）年に、暮鳥の友人であった詩人・室生犀星が、この詩碑のために揮毫（きごう）しました。

照沼信忠（村松村長）や原隆明（村松山虚空蔵堂住職）ら、暮鳥を敬慕していた人々の間で詩碑建立の話が持ち上がったのは昭和12（1937）年12月。村松山虚空蔵堂に集まった関係者の集合写真を見ると、本堂の柱には「国民精神総動員」のポスターが貼られています。この年、日中戦争が始まり、国家主義・軍国主義が鼓吹されていた時代です。「普通、偉い人というのは軍隊関係の人で、そういう人の碑なら分かる」というのが一般の感覚でした。そうした風潮の中での詩碑建立計画からは、文学を愛好していたというだけではなく、農村の指導者、宗教者として平和を希求するメッセージを読みとることができます。詩人・萩原朔太郎とともに講演会のため旧制水戸高校を訪れた犀星に面会して揮毫を依頼するなど準備が進められましたが、時流にはあらがえず計画実現には至りませんでした。

いったんはお蔵入りとなった計画ですが、時を経た昭和47（1972）年、照沼信邦（村教育委員会委員長）が、亡父信忠の遺品等を収めていた書棚から犀星の書を見つけたことがきっかけとなり、詩碑建立を目指す委員会（会長は川崎義彦村長）が立ち上げられました。先代の遺志を継ごうという照沼信邦や原教仙（村松山虚空蔵堂住職）らの計画には全国から賛同の声が届き、委員会には目標額を越える420万円の募金が集まり、詩碑は建立されました。

詩碑の除幕式には、土田富士（暮鳥夫人）、室生朝子（犀星の娘）らも出席し、福田赳夫（内閣総理大臣、暮鳥と同郷）からはお祝いの言葉が届きました。先人の思いを詩碑に込めて未来へと紡いでいく。発案から40年の歳月を経て完成した暮鳥詩碑は、世代を越えた「交流」という言葉の意味と重さを考えさせてくれます。

（文中の敬称略）

【村松山虚空蔵堂の山村暮鳥の詩碑】